



# 平成25年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成24年7月31日

上場取引所 東

上場会社名 M-ライフネット

コード番号 7157 URL <http://www.lifenet-seimei.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 出口治明

問合せ先責任者 (役職名) 企画部長 (氏名) 堅田航平

TEL 03-5216-7900

四半期報告書提出予定日 平成24年8月7日 配当支払開始予定日 未定

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成25年3月期第1四半期の業績(平成24年4月1日～平成24年6月30日)

### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	経常収益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第1四半期	1,337	64.7	△69	—	△113	—
24年3月期第1四半期	812	159.6	△39	—	△40	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第1四半期	△2.71	—
24年3月期第1四半期	△1.21	—

当社は2012年1月24日付で株式1株につき1,000株の株式分割を行いました。平成24年3月期第1四半期の1株当たり四半期純利益については、その期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第1四半期	19,099	16,056	84.0	381.20
24年3月期	18,861	16,159	85.6	383.75

(参考) 自己資本 25年3月期第1四半期 16,036百万円 24年3月期 16,139百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年3月期	—				
25年3月期(予想)		0.00	—	0.00	0.00

## 3. 平成25年3月期の業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

当社は、平成25年3月期の業績予想は開示しておりません。詳細は、添付資料11ページ「1(6)業績予想」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年3月期1Q	42,070,000 株	24年3月期	42,057,000 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

25年3月期1Q	— 株	24年3月期	— 株
----------	-----	--------	-----

③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期1Q	42,060,462 株	24年3月期1Q	33,717,000 株
----------	--------------	----------	--------------

当社は2012年1月24日付で1株につき1,000株の割合をもって株式分割を行いました。平成24年3月期の第1四半期については、その期首に当該株式分割が行われたと仮定して株式数を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外です。なお、本四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビューは終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当社は、平成24年7月31日(火曜日)午後5時から、機関投資家、アナリスト向けに電話会議を開催する予定です。電話会議における説明内容は、終了後、当社IRウェブサイト( <http://ir.lifenet-seimei.co.jp/> )に掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 2012 年度第 1 四半期決算の概要

(1) 経営成績	1
(2) 財政状態	5
(3) トピックス	6
(4) 基礎利益	7
(5) ソルベンシー・マージン比率	9
(6) 業績予想	11

2. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表	12
(2) 四半期損益計算書	13
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	14
(4) 継続企業の前提に関する注記	15
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	15
(6) その他の注記情報	15

以上

2012年7月31日

各位

会社名 ライフネット生命保険株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 出口 治明  
 (コード番号:7157 東証マザーズ)

## ライフネット生命保険 2012年度第1四半期決算短信

保険料等収入は前年同期比 78.0%増加の 1,300 百万円

ライフネット生命保険株式会社 (URL: <http://www.lifenet-seimei.co.jp/> 本社:東京都千代田区、代表取締役社長:出口治明) の2012年度第1四半期決算(2012年4月1日~2012年6月30日)は以下のとおりです。

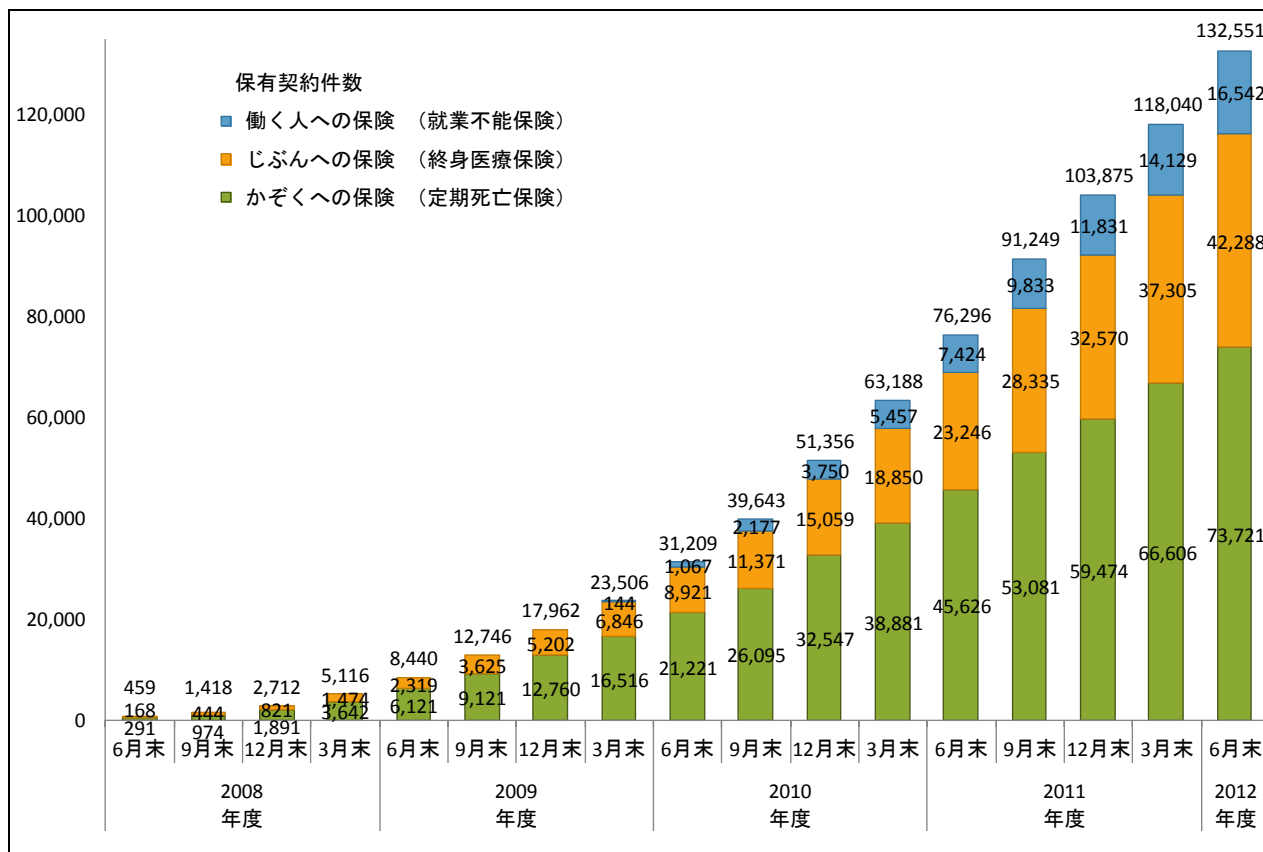
### 1. 2012年度第1四半期決算の概要

#### (1) 経営成績

##### 契約の状況

2012年度第1四半期累計期間の新契約件数は16,570件(前年同期比116.2%)となるとともに、2012年4月16日には保有契約件数12万件、同年6月14日には13万件を突破しました。この結果、当第1四半期会計期間末時点の保有契約件数は132,551件(前年同期末比173.7%)、保有契約の年換算保険料は5,458百万円となり、「開業後5年以内に保有契約15万件」という経営目標の達成に向け順調に推移しました。また、解約失効率は、6.5%(前年同期6.5%)となりました。

##### 保有契約件数の推移(件)



# NEWS RELEASE



## 保険金等の支払いの状況

当第1四半期累計期間にお支払いした保険金等は、保険金5件、81百万円、給付金481件、48百万円(前年同期 保険金4件、53百万円、給付金239件、24百万円)となりました。当社は、保険金等の支払いを生命保険会社の最も重要な社会的責務であると認識するとともに、3重のチェック態勢により保険金等の支払い漏れ防止に取り組み、適切な支払いを通じてお客さまの信頼向上に努めております。

また、当社は、保険金等の支払いに必要な書類が会社に到着してから、原則5営業日以内に保険金等をお支払いしております。事実の確認や請求書類の不備の補完に要した日数を除き、当第1四半期累計期間において支払いに要した平均営業日数は3.19日となりました。

## お客さまの声の状況

当社は、「お客さまの声」を、保険商品・サービスをお客さまにとってより魅力あるものにしていくための貴重な経営資源としてとらえ、コンタクトセンターを中心に全社的に収集・管理・分析の上、サービスの継続的改善とお客さま満足度の向上にむけて日々の事業運営に反映しております。当第1四半期累計期間に、コンタクトセンターに寄せられた総相談件数は、前年同期比124.5%の18,882件(前年同期15,172件)となり、そのうち苦情件数は124件(前年同期80件)となりました。コンタクトセンターにおける継続的な対応品質の改善、ウェブサイトの改善等により、総相談件数に占める苦情の比率は、0.7%(前年同期0.5%)と引き続き低水準で推移しました。

(単位:百万円)

新契約の状況	2012年度 第1四半期	2011年度 第1四半期	2011年度
新契約件数	16,570件	14,266件	60,725件
新契約金額(新契約高)	126,408	116,034	487,141
年換算保険料	679	573	2,468
うち医療保障・生前給付保障等	339	270	1,177
保険金等支払件数	486件	243件	1,284件
お客さまからの総相談件数	18,882件	15,172件	72,001件

(単位:百万円)

保有契約の状況(単位:件、百万円、名)	2012年度 第1四半期	2011年度 第1四半期	2011年度
保有契約件数	132,551件	76,296件	118,040件
内訳:「かぞくへの保険」(定期死亡保険)	73,721件	45,626件	66,606件
内訳:「じぶんへの保険」(終身医療保険)	42,288件	23,246件	37,305件
内訳:「働く人への保険」(就業不能保険)	16,542件	7,424件	14,129件
保有契約金額(保有契約高)	1,214,964	773,447	1,105,302
年換算保険料	5,458	3,180	4,870
うち医療保障・生前給付保障等	2,286	1,183	1,992
保有契約者数	83,999人	51,051人	75,622人
解約失効率	6.5%	6.5%	6.4%

(注)1. 個人保険の件数は主契約の件数であり、第三分野保険(医療保障・生前給付保障等)を含みます。また、個人保険の金額は死亡保障額の合計であり、第三分野保険の保障額を含みません。

2. 解約失効率は、解約・失効の件数を月々の保有契約件数の平均で除した比率を年換算した数値です。

# NEWS RELEASE



## 資産運用の状況

当第1四半期累計期間も、国債に代表される高格付けの円建て債券を中心とした運用を継続しております。現状では、相対的にリスクが高いと考えられる外貨建て資産への投資、貸付及び不動産投資並びにサブプライム関連の投融資は行っておりません。株式投資では、資本業務提携を目的として、当社の保険募集代理店である株式会社アドバンスクリエイトの株式を保有しておりますが、当面の間、資産運用目的において株式を保有する予定はありません。このように、リスクを限定した運用方針に基づき資産運用を行っているため、マクロの運用環境の変化が当社の運用収益に与える影響は、限定的であると認識しております。

以上の運用方針の下、当第1四半期会計期間末の一般勘定資産残高は19,099百万円(前事業年度末18,861百万円)となりました。このうち、運用資産残高は13,755百万円(前事業年度末14,229百万円)となり、その大部分は国債を中心とした高格付けの公社債などの円金利資産となりました。この結果、当第1四半期累計期間の資産運用収益は9百万円(前年同期11百万円)となりました。

## その他の成果

2012年4月には、2008年5月の開業以来初めてウェブサイトの大幅なリニューアルを行うとともに、6月にはスマートフォンでの申込み対応を開始するなど、当社の店舗であるウェブサイトの改善を重ねることで、お客さまの利便性の向上に努めております。なお、当社のウェブサイトは、そのわかりやすさが評価され、2012年6月に一般社団法人ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会®が主催するUCDAアワード2012の生命保険募集ウェブページ部門で「情報のわかりやすさ賞」を受賞しました。また、株式会社毎日新聞社発行の「週刊エコノミスト」2012年6月26日号「専門家が選ぶ お勧め商品ランキング」において、当社の定期死亡保険「かぞくへの保険」が、死亡保障部門で第1位となりました。さらに、新テレビCMシリーズの放映開始や、「ライフネット生命×Webクリエイター『CONTENTS BATTLE!』」及び「放送作家 小山薫堂氏とのコラボレーション企画『いのちのかぞえかた』」の特設サイトを開設するなど、当社の認知度向上のための取組みを推進しました。

## NEWS RELEASE



## 収支の状況

当第1四半期累計期間の保険料等収入は、保有契約の増加に伴い、1,300百万円(前年同期比178.0%)と大幅に増加しました。また、有価証券の購入に伴い経過利息が増加したことにより、資産運用収益は9百万円(前年同期比79.9%)と減少しました。この結果、当第1四半期累計期間の経常収益は1,337百万円(前年同期比164.7%)となりました。

保険金等支払金は、保有契約の増加に伴う保険金等の支払いの増加により141百万円(前年同期比163.7%)と増加しました。また、事業費については認知度向上を目的とした広告宣伝等により、1,309百万円(前事業年度比168.7%)となりました。事業費のうち、広告宣伝費等を含む営業費用は776百万円、保険事務費用は131百万円、システムへの投資及び人件費を含むシステムその他費用は401百万円となりました。この結果、当第1四半期累計期間の経常費用は1,407百万円(前年同期比165.2%)となりました。なお、当社は、保険業法第113条に基づき事業費の一部を繰延べております。

以上の結果、当第1四半期累計期間の経常損失は、△69百万円(前年同期 △39百万円)となりました。また、四半期純損失は、△113百万円(前年同期 △40百万円)となりました。

(単位:百万円)

収支状況	2012年度 第1四半期	2011年度 第1四半期	2011年度
経常収益	1,337	812	3,773
保険料等収入	1,300	730	3,720
資産運用収益	9	11	47
その他経常収益	28	70	5
経常費用	1,407	851	4,461
保険金等支払金	141	86	410
責任準備金等繰入額	411	192	1,130
危険準備金繰入額	74	71	295
資産運用費用	0	0	0
事業費	1,309	776	3,984
営業費用	776	386	2,160
保険事務費用	131	98	446
システムその他費用	401	291	1,378
その他経常費用	305	170	1,041
保険業法第113条繰延額	△760	△373	△2,106
経常損失(△)	△69	△39	△687
四半期(当期)純損失(△)	△113	△40	△900
基礎利益	5	31	△391

## NEWS RELEASE



## (2) 財政状態

## 資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期会計期間末の総資産は、保険業法第113条繰延資産の増加により、19,099百万円(前事業年度末 18,861百万円)となりました。主な勘定残高は、国債や高格付の社債を中心とした有価証券 13,517百万円、保険業法第113条繰延資産4,235百万円、ソフトウェア等の無形固定資産448百万円、預貯金238百万円となりました。負債の部は、保有契約の増加に伴い責任準備金が増加したことから、3,042百万円(前事業年度末 2,702百万円)となりました。主な勘定残高は、責任準備金 2,155百万円(うち、危険準備金804百万円)、支払備金 169百万円となりました。純資産は 16,056百万円(前事業年度末 16,159百万円)となりました。その他有価証券評価差額金は、資本業務提携目的で保有する株式の含み益の増加などにより、前事業年度末から改善し 40百万円となりました。

## キャッシュ・フローの状況

当第1四半期累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、事業費の支払いが増加したことにより、386百万円の支出(前年同期 236百万円の支出)となりました。投資活動によるキャッシュ・フローについては、主に有価証券の償還による収入が増加したことにより、197百万円の収入(前年同期 62百万円の収入)となりました。また、財務活動によるキャッシュ・フローは、0百万円の支出(前年同期 6百万円の支出)となりました。

(単位:百万円)

財政状態	2012年度 第1四半期	2011年度 第1四半期	2011年度
資産	19,099	10,554	18,861
有価証券	13,517	7,026	13,800
国債	6,764	3,355	9,939
社債	6,605	3,527	3,721
株式	147	143	139
負債	3,042	1,283	2,702
責任準備金	2,155	872	1,743
危険準備金	804	504	729
純資産	16,056	9,271	16,159
ソルベンシー・マージン比率	2,976.2%	2,772.5%	3,499.1%
営業活動によるキャッシュ・フロー	△386	△236	△882
投資活動によるキャッシュ・フロー	197	62	△6,881
財務活動によるキャッシュ・フロー	△0	△6	7,728

(注) 2011年度末以降におけるソルベンシー・マージン比率は、厳格化された新基準に基づいて算出しております。なお、2011年度第1四半期の数値は、新基準を同四半期末に適用したと仮定した数値です。



# NEWS RELEASE



## (3)トピックス

2012年第1四半期(2012年4月~6月)

- |       |  |
|-------|--|
| 4月16日 | 保有契約12万件を突破                                      |
| 4月18日 | ライフネット生命×Webクリエイター<br>「CONTENTS BATTLE!」特設サイトを開設 |
| 4月25日 | ウェブサイトを全面リニューアル                                  |
| 4月26日 | 新TVCMシリーズを放映開始                                   |
| 5月15日 | 2011年度決算発表                                       |
| 5月18日 | 開業4周年  |
| 5月18日 | 2012年3月末のヨーロッパ・エンベディッド・バリューを開示                   |
| 5月31日 | 放送作家 小山薫堂氏とのコラボ企画<br>「いのちのかぞえかた」特設サイトを開設         |
| 6月5日  | UCDAアワード2012 生命保険募集ウェブページ部門<br>「情報のわかりやすさ賞」を受賞   |
| 6月14日 | 保有契約件数13万件を突破                                    |
| 6月24日 | 上場後初めての定時株主総会を開催                                 |
| 6月25日 | 週刊エコノミスト「専門家が選ぶ お勧め商品ランキング」<br>死亡保障部門で第1位を獲得     |
| 6月28日 | スマートフォン経由で全ての保険商品を申し込みできるサービスを開始                 |

# NEWS RELEASE



## (4) 基礎利益

生命保険料の計算は、予定発生率(死亡率、入院率など)、予定利率、予定事業費率(付加保険料部分)の3つに基づいております。これらの「予定」と実績との差によって生命保険会社の利益(基礎利益)が生じていると考え、それぞれの差分を算出することによって、基礎利益がどのような要因から生じているのかを明らかにするのが利源分析の考え方です。\*

- 危険差益(差損): 想定した保険金・給付金の支払額(予定発生率)と実際に発生した支払額との差
- 費差益(差損): 想定した事業費(予定事業費率)と実際の事業費支出との差
- 利差益(差損)もしくは順ざや(逆ざや): 想定した運用収益(予定利率)と実際の運用収益との差

当第1四半期累計期間の基礎利益の状況は以下のとおりです。

### 基礎利益の内訳(三利源)

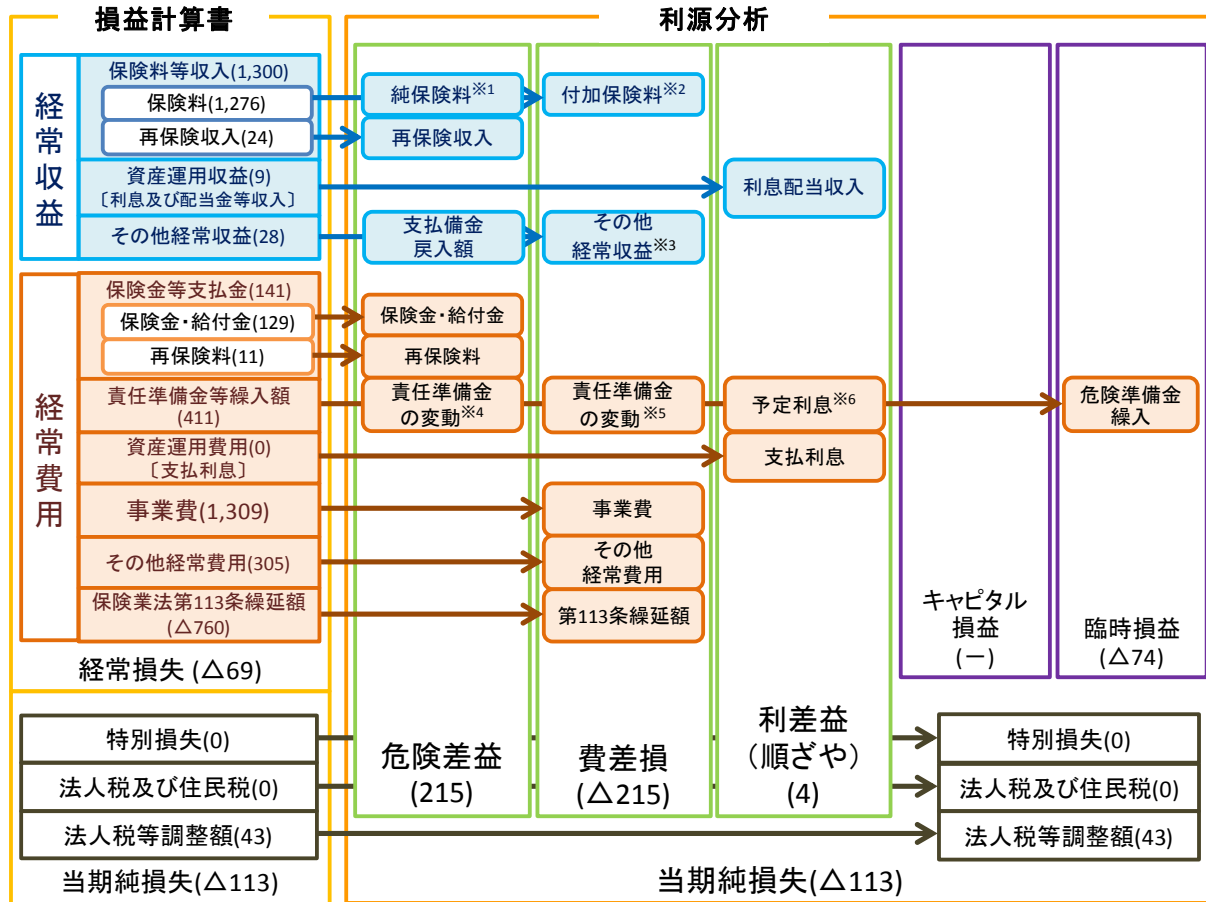
(単位: 百万円)

基礎利益	2012年度 第1四半期	2011年度 第1四半期	2011年度
基礎利益 ①	5	31	△391
危険差益	215	188	490
費差損(△)	△215	△167	△919
利差益(順ざや額)	4	10	37
キャピタル損益 ②	—	—	—
臨時損益 ③	△74	△71	△295
経常損失(△) ④(=①+②+③)	△69	△39	△687
特別損益・法人税等 ⑤	△43	△0	△212
四半期(当期)純損失(△) ⑥(=④+⑤)	△113	△40	△900

\*当社の利源分析は、保険数理上合理的な方法を採用しておりますが、具体的な計算方法は他の生命保険会社と異なることがあります。当社では保険料の内訳計算等について5年チルメル式を採用し、解約・失効による利益(解約失効益)は、費差損益に含めます。

三利源の考え方

(単位:百万円)



- ※1 保険料のうち、当年度の保険金等の支払に充てられる「危険保険料」と、将来の支払に備えて保険料積立金の積み立てに充てられる「貯蓄保険料」からなります。
- ※2 保険料のうち、会社の事業費などの支出に充てられる部分です。
- ※3 その他経常収益から支払備金戻入額を除いた額です。
- ※4 保険料積立金の純増加分(上記の貯蓄保険料で賄われる)及び死亡契約などで支払に充てるために取り崩される分などからなります。
- ※5 契約の解約・失効により、積み立てを要しなくなったため取り崩される保険料積立金です。
- ※6 保険料積立金の計算にあらかじめ織り込まれている利息分です。

# NEWS RELEASE



## (5) ソルベンシー・マージン比率

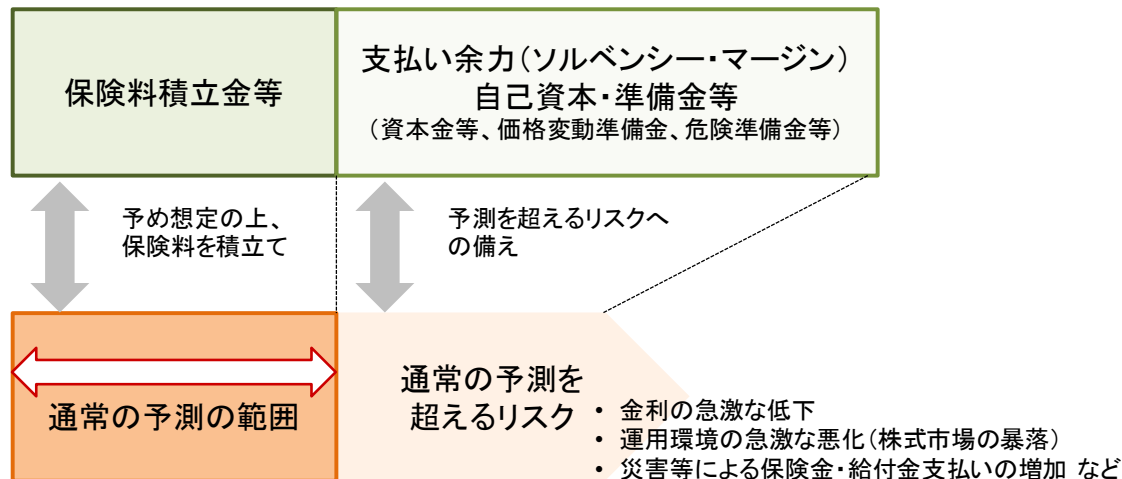
当第1四半期会計期間末のソルベンシー・マージン比率は、2,976.2%となりました。保有契約増に伴いリスクの合計額が増加したことから、2011年度末に比べ減少しました。なお、2011年度末以降におけるソルベンシー・マージン比率は、厳格化された新基準に基づいて算出しております。なお、2011年度第1四半期末の数値は、新基準を同四半期末に適用したと仮定した数値です。

(単位:百万円)

	ソルベンシー・マージン 総額	÷	リスクの合計額 × (1/2)	=	ソルベンシー・マージン 比率
2012年度第1四半期末 (2012年6月末)	12,640		849 × (1/2)		2,976.2%
2011年度第1四半期末 (2011年6月末)	7,350		530 × (1/2)		2,772.5%
2011年度末 (2012年3月末)	13,242		756 × (1/2)		3,499.1%

### ソルベンシー・マージン(支払い余力)の考え方

ソルベンシー・マージン比率とは、大災害や株式市場の暴落など、通常の予測の範囲を超えて発生するリスクに対応できる「支払い余力」を有しているかどうかを判断するための経営指標・行政監督上の指標の一つです。具体的には、純資産などの内部留保と有価証券含み益などの合計(ソルベンシー・マージンの総額=支払い余力)を、定量化した諸リスクの合計額で除して求めます。なお、ソルベンシー・マージン比率が200%以上であれば、行政監督上、健全性に係るひとつの基準を満たしているとされます。

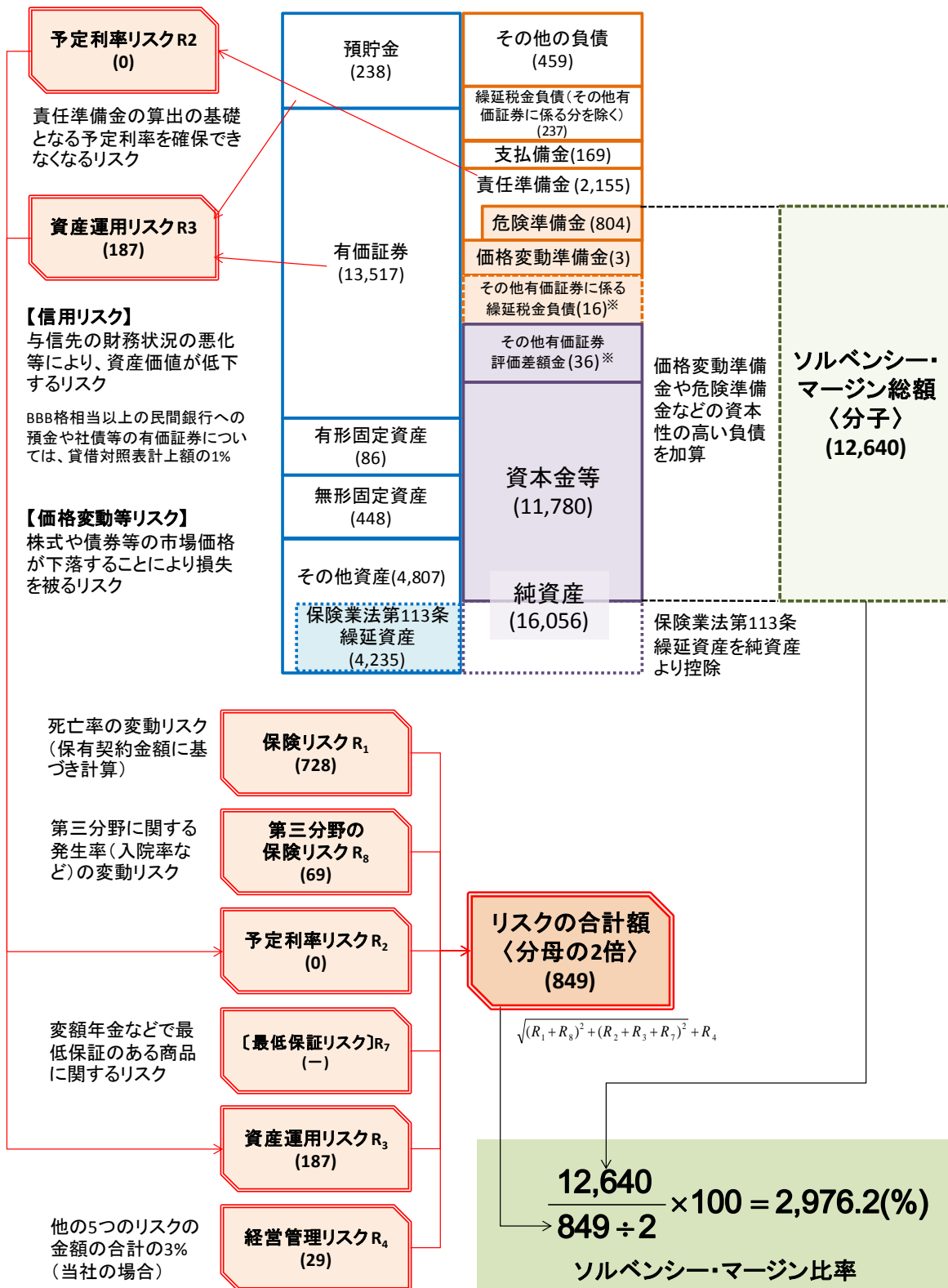




# NEWS RELEASE

## ソルベンシー・マージン比率の計算 (2012年6月末)

(単位: 百万円)



当社で該当するものがない項目や金額が微小な項目については、一部[]で囲んで表記しているものを除き、省略しています。

※ その他有価証券の評価差額金(税引前)の90%(マイナスのときは100%)

## NEWS RELEASE

**(6) 業績予想**

当事業年度は、「新契約件数及び新契約価値の高成長の持続」、「業務プロセスの見直しによる効率の改善」、「上場企業にふさわしい組織体制の整備」に重点的に取り組んでまいります。

その一方で、業績予想は、以下の理由により開示しません。

- ・保険金等の支払いによる損益の変動リスクが大きいため
- ・保守的な生命保険会計と経済的実態との差異が生じるため

毎四半期における決算発表、販売速報等の実績値の開示の充実及び早期化、あるいは中長期の経営方針等の開示内容の充実を図るなど、マニフェストに掲げている積極的な情報開示を推進することで、ステークホルダーの皆さまの当社に対する理解の促進を図ります。

**ライフネット生命について URL: <http://www.lifenet-seimei.co.jp/>**

ライフネット生命保険は、相互扶助という生命保険の原点に戻り、「正直に経営し、わかりやすく、安くて便利な商品・サービスの提供を追求する」という理念のもとに設立された、インターネットを主な販売チャネルとする新しいスタイルの生命保険会社です。インターネットの活用により、高い価格競争力と24時間いつでも申し込み可能な利便性を両立しました。徹底した情報開示やメール・電話・対面での保険相談などを通じて、お客さまに「比較し、理解し、納得して」ご契約いただく透明性の高い生命保険の選び方を推奨し、「生命(いのち)のきずな＝ライフネット」を世の中に広げていきたいと考えています。

会社及び商品の詳細は <http://www.lifenet-seimei.co.jp/> をご覧ください。

株主・投資家向けの情報は <http://ir.lifenet-seimei.co.jp/> をご覧ください。

本件に関するお問い合わせ先

03-5216-7900

広報： 吉川、関谷

IR： 堅田、近藤

2. 四半期財務諸表  
(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2012年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2012年6月30日)
<b>資産の部</b>		
現金及び預貯金	428	238
有価証券	13,800	13,517
国債	9,939	6,764
社債	3,721	6,605
株式	139	147
有形固定資産	90	86
無形固定資産	424	448
代理店貸	0	0
再保険貸	0	24
その他資産	4,116	4,783
未収金	348	389
保険業法第113条繰延資産	3,659	4,235
その他の資産	109	157
資産の部合計	18,861	19,099
<b>負債の部</b>		
保険契約準備金	1,940	2,324
支払備金	196	169
責任準備金	1,743	2,155
代理店借	2	2
再保険借	11	11
その他負債	535	444
特別法上の準備金	2	3
価格変動準備金	2	3
繰延税金負債	209	254
負債の部合計	2,702	3,042
<b>純資産の部</b>		
資本金	10,478	10,481
資本剰余金	10,478	10,481
利益剰余金	△4,852	△4,966
株主資本合計	16,103	15,996
その他有価証券評価差額金	35	40
評価・換算差額等合計	35	40
新株予約権	20	20
純資産の部合計	16,159	16,056
負債及び純資産の部合計	18,861	19,099

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期累計期間 (自 2011年4月1日 至 2011年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年6月30日)
経常収益	812	1,337
保険料等収入	730	1,300
保険料	719	1,276
再保険収入	10	24
資産運用収益	11	9
利息及び配当金等収入	11	9
その他経常収益	70	28
支払備金戻入額	69	27
その他の経常収益	1	1
経常費用	851	1,407
保険金等支払金	86	141
保険金	53	81
給付金	24	48
再保険料	8	11
責任準備金等繰入額	192	411
責任準備金繰入額	192	411
資産運用費用	0	0
支払利息	0	0
事業費	* 776	* 1,309
その他経常費用	170	305
保険業法第113条繰延額	△373	△760
経常損失(△)	△39	△69
特別損失	0	0
価格変動準備金繰入額	0	0
税引前四半期純損失(△)	△39	△69
法人税及び住民税	0	0
法人税等調整額	—	43
法人税等合計	0	43
四半期純損失(△)	△40	△113



(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期累計期間 (自 2011年4月1日 至 2011年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2012年4月1日 至 2012年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純損失 (△)	△39	△69
減価償却費	40	54
支払備金の増減額 (△は減少)	△69	△27
責任準備金の増減額 (△は減少)	192	411
価格変動準備金の増減額 (△は減少)	0	0
利息及び配当金等収入	△11	△9
支払利息	0	0
代理店貸の増減額 (△は増加)	△0	0
再保険貸の増減額 (△は増加)	△10	△23
その他資産 (除く投資活動関連、財務活動関連) の増減額 (△は増加)	△337	△663
代理店借の増減額 (△は減少)	0	0
再保険借の増減額 (△は減少)	8	0
その他負債 (除く投資活動関連、財務活動関連) の増減額 (△は減少)	△28	△78
その他	△5	△19
小計	△261	△422
利息及び配当金等の受取額	28	40
利息の支払額	△0	△0
法人税等の支払額	△3	△3
営業活動によるキャッシュ・フロー	△236	△386
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	△406	△8,824
有価証券の売却・償還による収入	599	9,100
資産運用活動計	193	275
営業活動及び資産運用活動計	△42	△111
有形固定資産の取得による支出	△23	△11
無形固定資産の取得による支出	△108	△66
投資活動によるキャッシュ・フロー	62	197
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
新株予約権の行使による株式の発行による収入	—	6
リース債務の返済による支出	△6	△7
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6	△0
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△181	△190
現金及び現金同等物の期首残高	380	428
現金及び現金同等物の四半期末残高	* 199	* 238

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) その他の注記情報

(四半期損益計算書関係)

※事業費の内訳は次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自2011年4月1日 至2011年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自2012年4月1日 至2012年6月30日)
営業管理費		
募集代理店経費	5	8
選択経費	1	1
営業活動費小計	7	9
営業管理費		
広告宣伝費	349	722
営業管理費小計	349	722
一般管理費		
人件費	197	242
物件費	220	334
負担金	0	1
一般管理費小計	419	578
合計	776	1,309

(注) 1. 一般管理費・物件費の主なものは、保険事務・システム等の契約の維持・管理に際して必要な経費等であります。

2. 負担金は、保険業法第259条の規定に基づく生命保険契約者保護機構に対する負担金であります。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

※現金及び現金同等物の四半期末残高は、四半期貸借対照表に掲記されている現金及び預貯金と同額であります。

(金融商品関係)

前事業年度末 (2012年3月31日)

	貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
預貯金	428	428	—
有価証券	13,800	13,799	△0
満期保有目的の債券	10,431	10,430	△0
その他有価証券	3,369	3,369	—
その他資産 未収金	348	348	—

当第1四半期会計期間末(2012年6月30日)

	四半期貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
預貯金	238	238	—
有価証券	13,517	13,526	8
満期保有目的の債券	7,638	7,647	8
その他有価証券	5,878	5,878	—
その他資産 未収金	389	389	—

(1) 預貯金

当社は、満期がない預金のみを保有しており、それらの時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(2) 有価証券

有価証券の時価は、2012年6月末日(前事業年度末は2012年3月末日)の取引所又は取引金融機関から入手した価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「(有価証券関係)」をご参照下さい。

(3) 未収金

未収金については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(有価証券関係)

1. 満期保有目的の債券

前事業年度末(2012年3月31日)

	貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
国債	8,517	8,521	3
社債	1,913	1,909	△4
合計	10,431	10,430	△0

当第1四半期会計期間末(2012年6月30日)

	四半期貸借対照表計上額 (百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
国債	4,378	4,385	7
社債	3,260	3,262	1
合計	7,638	7,647	8

2. その他有価証券

前事業年度末(2012年3月31日)

	取得原価(百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)	差額(百万円)
債券			
国債	1,414	1,422	7
社債	1,802	1,807	5
株式	100	139	39
合計	3,318	3,369	51

当第1四半期会計期間末(2012年6月30日)

	取得原価(百万円)	四半期貸借対照表計上額 (百万円)	差額(百万円)
債券			
国債	2,376	2,386	9
社債	3,342	3,344	1
株式	100	147	47
合計	5,820	5,878	58

(デリバティブ取引関係)  
該当事項はありません。

(持分法損益等)  
該当事項はありません。

(セグメント情報等)  
前第1四半期累計期間(自2011年4月1日 至2011年6月30日)及び当第1四半期累計期間(自2012年4月1日 至2012年6月30日)

【セグメント情報】

当社は、生命保険事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自2011年4月1日 至2011年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自2012年4月1日 至2012年6月30日)
1株当たり四半期純損失金額	1.21円	2.71円
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(百万円)	40	113
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純損失金額(百万円)	40	113
期中平均株式数(株)	33,717,000	42,060,462
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要	—	

- (注) 1. 前第1四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であり期中平均株価が算定できないため、また、1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。当第1四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。
2. 当社は2012年1月24日付で株式1株につき1,000株の株式分割を行いました。前第1四半期累計期間の1株当たり四半期純損失金額については、その期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純損失金額を算定しております。

(重要な後発事象)  
該当事項はありません。